

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	82	実施計画番号	16
事務事業名	道路の整備		事業開始年度
担当課名	土木課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	道路法	関連事務事業	
背景や経緯等	道路管理者は、道路法上の道路において、安全かつ円滑な交通の確保を図るため、道路の整備や適正な維持管理の義務があり、これらを怠ったため、他人に損害が生じた場合には、道路の管理の瑕疵に対する賠償責任を追及されることがある。		
事務事業の目的	道路利用者と道路沿線の住民に安全で良好な道路環境を提供するために道路整備を行う。		
実施状況	道路整備は、市の財政事情を踏まえ、地域の特性や道路の現状、市民からの要望等を考慮し、公平・効率的に計画し、コスト軽減を意識しながら道路整備を実施した。		

### 【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	5	5	7
	活動日数(日)	220	220	220
	人件費(千円)	39,600	39,600	55,440
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		1,020,808	929,531	1,567,657
うち一般財源		411,915	399,618	611,964
うち国県支出金		167,593	177,913	349,893
うち地方債		441,300	352,000	605,800
うちその他				

### 【指標】

活動指標	活動指標名①		改良率			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	改良整備済延長÷市道延長		%	57.7	57.8	59.0
	活動指標名②		舗装率			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	舗装済延長÷市道延長		%	74.9	75.0	76.0
成果指標	成果指標名①		改良率			
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
	改良整備済延長 ÷市道延長	%	目標値	57.0	58.0	59.0
			実績値	57.7	57.8	
			達成度(%)	101%	100%	
	成果指標名②		舗装率			
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
	舗装延長 ÷市道延長	%	目標値	74.0	75.0	76.0
実績値			74.9	75.0		
達成度(%)			101%	100%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	82
計画No	16

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 依然として、市民からの要望が多く、また、道路の陥没による事故が発生していることから早急な整備が必要である。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 計画的に推移している。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 それぞれの道路の機能に合わせた必要最小限の規格整備と徹底したコスト縮減に努めている。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 市の財政事情を踏まえ、地域の特性、道路の現状や市民からの要望等を考慮し、整備の優先公平・効率的に計画し道路整備を実施している。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
					現在の適性	20 / 20	改善の余地	0 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由	道路の整備を実施し安全で良好な道路環境を提供するため。
今後の具体的な取組方策と狙う効果	それぞれの道路の機能に合わせた必要最小限の規格整備と徹底したコスト縮減により整備し、道路利用者と道路沿線の住民に安全で良好な道路環境を提供する。